

## 6年生の活躍！

### ワールドカップで日本サポーターの残した言葉

校長 松本 雅史

いよいよ2学期最後の週となりました。この2学期、皆さんは多くのことに挑戦し、大きく成長してきたことと思います。今朝紹介したいのは、6年生の挑戦です。12月8日の音楽朝会で、皆さんも動画で見たと思いますが、6年生は、ルネこだいらで、五小の代表として演奏をしてきました。本当に大感動の素晴らしい演奏でした。そして、先日の金曜日には、世界同時授業を行いました。これは、今、深刻になっている地球環境が悪くなっている問題や平和の問題、人が人として大切にされる問題などに対して調べ、今できることを実践していることを交流し合うものです。6年生は、この学習に夏休みから地道に取り組んできました。この日の同時授業では、宮城県や京都府、沖縄県などの日本国内だけでなく、グアムやタイ、中国といった世界各地の小中学校を結んで、意見交流が行われました。五小の6年生の提案や実践に対して、様々な質問が寄せられましたが、6年生はそれにしっかり答えていました。とても頼もしく感じました。6年生の皆さん、本当にご苦労様でした。

さて、もう一つの話は、昨日の夜、サッカーワールドカップの決勝戦が行われました。壮絶な戦いでした。そして、今回の優勝国はアルゼンチンでした。勝ったアルゼンチンの皆さんに心からお祝いを申し上げたいと思います。

以前、朝会で、このワールドカップにおいて、実は日本人応援

団の振る舞いがとても毎回話題になっているというお話をしました。皆さんは覚えていますか。それは、試合後の清掃活動です。

前回のロシア大会に引き続き、日本人サポーターによるこの清掃活動は、世界からとても褒めたたえられています。

各国メディアに取り上げられた日本人サポーターのゴミ拾いですが、現地取材の方が、驚きと感動をもって伝えた日本人サポーターの言葉があります。それは「日本人はなぜゴミ拾いをするのですか？」との質問に対する答えです。皆さんは、この質問に日本人サポーターは何と言って答えたと思いますか？

サポーターから出た答えは「A T A R I M A E（当たり前）」だったのです。「使う前より使った場所をきれいにする」「いつも感謝の気持ちを持つこと」それは、日本人にとって「当たり前」なんだと、取材を受けたサポーターは話したのです。この「当たり前」の意味を知った取材記者は、「A T A R I M A E（当たり前）」は、史上最高の言葉だと、その感動を伝えていました。

「世界中にもっとこれが広がればいいと思っています」という言葉で取材映像は締めくくられていました。

礼をして始め、礼をして終わる、その場を去るときは、来る前よりも美しく整えて去る、この「あたりまえ」を私も子どもころ、「来る前よりも美しく！」と、先生を始め、大人たちから何度も教わりました。普段の生活はもちろん、出かけた先でも「当たり前」の心で爽やかに生活していきたいと思います。今週は大掃除もあります。ただきれいにすればいいというのではなく、そこに感謝の気持ちをこめて協力してできるといいですね。

これで今朝のお話は終わります。